

第9回フラッグシップ輸出産地に関する有識者会議 主な意見

- フラッグシップ輸出産地には大規模なロットでの輸出を行う使命があると考えており、特に農協等の大ロット集荷可能な事業者を中心とする地域・産地を輸出産地として育成していただきたい。輸出産地としての大きな強みである都道府県の枠を超えた取組を実施している農業生産法人等を中心とする産地についても、同様に輸出産地としての育成を図る必要がある。
- 米のフラッグシップ輸出産地は累計で9産地となった。米の生産に係る取組が重要である一方、近年では海外で加速する人手不足を背景に冷凍シャリ玉・冷凍寿司・冷凍弁当等のRTE商品の輸出がトレンドとなりつつあり、欧米を中心に需要が更に増加する可能性があるため、動向を注視したうえで来年度以降の事業に反映させていきたい。
- 国産牛肉の台湾・香港向け輸出は堅実に伸長しており、特に和牛については更なる上積みが可能である。フラッグシップ輸出産地に加えて、畜産物輸出コンソーシアム事業等も活用しながら、和牛の輸出拡大を図ってきたい。
- 茶の産地はこれまでの輸出実績に加えて、地域における生産管理水準の高さ・残留農薬規制をクリアするための仕組み・各種認証の取得状況等を踏まえてフラッグシップ輸出産地として認定している。茶は嗜好品であるため、商品の価格差が大きいという特徴がある。茶は海外での需要拡大を背景として、抹茶・粉末緑茶等の輸出拡大に向けた取組が進められている。
- 切り花については、供給力の確保・後継者不足への対応等の課題も依然として存在しているため、今回のフラッグシップ輸出産地に認定されたことを契機として、両産地との連携・課題解決等を実施し、本認定を生かした取組を進めていきたい。
- 近年、米国へのヒノキの輸出量が増加しているため、次年度以降は米国向けにヒノキの輸出を行っている事業者も掘り起こしたい。
- わさびは根・葉の両方を食品として使用できる作物であり、根茎は長野県・静岡県が主要な生産地である。わさびは小規模生産者が多いため、産地が一丸となった輸出取組が広がることで、後継者の参入増加につながることも期待している。

- 貝毒等の問題から米国・欧州向け輸出のハードルが高かったホタテ・牡蠣等の品目について、産地で連携した取組を通じて、米国・欧州等への輸出量を伸長させることを期待している。一方で、今年はホタテ・牡蠣の生産量が芳しくなく、特に牡蠣は主要産地の広島県で深刻な被害が出ている。輸出を継続するためには安定的な供給体制を構築することが重要であるため、産地の分散等の強靱な産地づくりに向けた取組を推進することが必要である。
- 高級小売店では品質の高さに加え、商品としてのストーリー性・安定した供給力が求められている。これらを実現するためにもフラッグシップ輸出産地の拡大は重要である。
- 人口減少によって生産者の減少が予想されている。各フラッグシップ輸出産地においても、輸出取組の中心的な担い手による経営が持続しなければ輸出産地としての取組推進は困難であるため、基幹的農業従事者・大規模化を進める農業法人等の中心的な担い手に対しても十分な支援・配慮が必要である。
- 輸出を継続・拡大していくためには、民間事業者・輸出関係者によるオールジャパンとして連携した取組が不可欠である。2030年に向けて輸出産地の拡大を進めるために、全農としても生産者・関係機関・輸出事業者と連携し、輸出先国の開拓を進めていきたい。
- 九州と東北では気候条件が異なるため、九州産品の供給が難しい時期に東北産品を輸出する等の地域を越えた補完的な連携を図っており、そのような地域を超えた連携についても評価していただきたい。
- 2030年までに輸出額5兆円を達成するためには、アッパー層に加えて、ミドル層へ日本食のリーチを拡大が必要であると考えているため、フラッグシップ輸出産地の拡大によって供給量が増加させることにより、ミドル層への販路拡大につながることを期待している。
- 日本産品の輸出取組は、将来的な食料安全保障・危機時に備えた生産力の維持という観点から、国内産地を持続的に機能させるために重要である一方で、農林水産物・食品は需要供給バランス・為替の変化により価格が大きく変動するため、国内での販売価格が上昇する中で輸出を行うことへの批判的な世論も生じている。そのため、輸出の必要性・意義に加えて生産者の取組・苦労について、一般消費者の理解を高めていくことが重要である。
- 海外からの観光客は日本食への関心が高く、都市部より地方での食体験を求める傾向がある。今後も更なるインバウンドの増加が見込まれているため、日本での食体験を帰国後の海外での消費・評価につなげることは、輸出拡大の重要なポイントである。フラッグシップ輸出産地の取組を通じて、農泊地域の拡大や農業・食体験の充実を図りたい。
- 第3回のフラッグシップ輸出産地について、28産地を選定する。